

Science Conference in Hyogo (兵庫「咲いテク」プログラム)

1 参加生徒：自然科学科 2年 13名 (9グループ)

2 仮説

Science Conferenceへ参加することで、次のような効果を予測することができる。

- (1) 研究内容を英語で他校の生徒や教員に分かりやすく伝達し、質問におおよそ対応することができる。
- (2) 他校の多くの生徒の発表を聞き、異なる視点から物事を考え、探究に取り組む己の姿勢を見直すことができる。
- (3) シンガポール研修でプレゼンを行う意識をより向上させる。

3 内容・方法・検証

① 内容・方法

- ・日時：令和元年7月13日(土)
- ・場所：神戸大学百年記念館
- ・参加校：県内のSSH指定9校
- ・内容：9:00~10:00 受付、開会式
10:00~11:00 特別講演
RIKEN Center for Biosystems Dynamics Research
Douglas Sipp “The Role of Regulation in Supporting Science”
11:00~12:00 昼食、会場設営(発表の準備)
12:00~14:35 ポスター発表
14:40 講評、閉会式、後片付け

・本校生の発表内容

Bath Salt (入浴剤)

How to Change the Bleeding Behavior of Ink on Paper (インクによる紙のにじみ方)

Erase Oil-based Pen (油性ペンを消す)

Sports and Knees (スポーツと膝)

Extending the Maintenance Time of Eco-Body Warmers (エコカイロの持続時間を延ばす条件)

Research on Tube-nesting Wasps and Bees (官住性ハチ類の生態について)

Creating Our Original Thermos Bottles (陶器で作る創作まほうびん)

Researching Artificial Rain (人口降雨についての研究)

A Two-Dimension Expansion of Nim(Nimの二次元拡張について)

② 検証(感想抜粋) 以下の感想から、概ね仮説(1)、(2)、(3)について達成されたと考える。

・他校の研究内容がとても進んでいたり、熱意のある発表内容を聞いて圧倒された。研究内容に関する知識は当然だけど、その他の知識そして何より英語力の必要性を感じた。

・英語の原稿を作ること、ポスターを英語で作ること、質疑応答も英語ですることの大変さがよくわかりました。でも伝えたいことが伝わった時の感動は嬉しすぎました。

